



CHAPTER

1

Cisco Unified Serviceability について

この章は、次の項で構成されています。

- [Cisco Unified Serviceability の概要 \(P.1-2\)](#)
- [レポート作成ツールとモニタリング ツール \(P.1-3\)](#)
- [リモート サービスアビリティ ツール \(P.1-4\)](#)
- [ブラウザのサポート \(P.1-5\)](#)
- [参考情報 \(P.1-5\)](#)

Cisco Unified Serviceability の概要

Cisco Unified Communications Manager の Web ベースのトラブルシューティング ツールである Cisco Unified Serviceability は、次の機能を備えています。

- トラブルシューティングに備えて、アラームとイベントを保存し、アラーム メッセージの定義を提供します。
- トラブルシューティングに備えて、トレース情報を各種ログ ファイルに保存します。
- Cisco Unified Communications Manager Real-Time Monitoring Tool (RTMT) を使用して、コンポーネントの動作をリアルタイムでモニタします。
- Cisco Unified Communications Manager CDR Analysis and Reporting (CAR) を使用して、QoS (Quality Of Service)、トラフィック、および課金情報の Cisco Unified Communications Manager レポートを生成します。
- [Service Activation] ウィンドウでアクティブ化、非アクティブ化、および表示できる機能サービスを提供します。
- 機能サービスとネットワーク サービスを起動および停止するインターフェイスを提供します。
- アラート要約またはサーバ統計情報レポートなどの日次レポートを生成し、アーカイブします。
- Cisco Unified Communications Manager が SNMP リモート管理とトラブルシューティングのための管理対象デバイスとして機能することを可能にします。
- 1 つのノード (またはクラスタ内のすべてのノード) 上のログ パーティションのディスク使用状況をモニタします。
- システム内のスレッドとプロセスの数をモニタし、キャッシュを使用してパフォーマンスを向上させます。



ヒント

Cisco RIS Data Collector は、Cisco Unified Communications Manager Real-Time Monitoring Tool に、プロセスおよびスレッドの統計カウンタを提供します。許可されるプロセスおよびスレッドの最大数を設定し、関連付けられているこれらのカウンタを Cisco RIS Data Collector が提供できるようにするには、Cisco Unified Communications Manager の管理ページで Cisco RIS Data Collector サービスの Maximum Number of Threads and Process サービスパラメータにアクセスします。サービス パラメータの設定については、『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』を参照してください。

レポート作成ツールとモニタリング ツール

Cisco Unified Serviceability は、次のレポート作成ツールを提供します。

- Cisco Unified Communications Manager CDR Analysis and Reporting (CAR) : Cisco Unified Communications Manager CDR Analysis and Reporting (CAR) では、QoS、トラフィック、および課金情報の Cisco Unified Communications Manager レポートを生成します。詳細については、『*Cisco Unified Communications Manager CDR Analysis and Reporting アドミニストレーションガイド*』を参照してください。
- Cisco Unified Communications Manager Real-Time Monitoring Tool (RTMT) : RTMT では、コンポーネントの動作をリアルタイムでモニタし、Serviceability Reports Archive を介してアクセスできる日次レポートを作成します。詳細については、『*Cisco Unified Communications Manager Real-Time Monitoring Tool アドミニストレーションガイド*』を参照してください。
- Serviceability Reports Archive: Cisco Serviceability Reporter サービスが生成するレポートをアーカイブします。
- Cisco Unified Communications Manager Dialed Number Analyzer : 展開した Cisco Unified Communications Manager のダイヤルプラン設定のテストと診断、テスト結果の分析、および結果を使用してダイヤルプランの調整を行うことができます。Dialed Number Analyzer へのアクセスおよび使用方法の詳細については、『*Cisco Unified Communications Manager Dialed Number Analyzer ガイド*』を参照してください。
- Cisco Unified レポート ツール Web アプリケーション : 調査およびトラブルシューティングを行うことができます。このアプリケーションは Cisco Unified Serviceability から独立しており、アクセス可能な全クラスタ ノードのデータのスナップショットを 1 つの出力ビューに表示します。クラスタの操作に影響を与える状態を識別するための検査を行うレポートもあります。権限のあるユーザの場合、Cisco Unified レポート ツールにアクセスするには、Cisco Unified CM の管理ページのメインナビゲーションメニューまたは RTMT メニューの **[System] > [Cisco Unified Reporting]** リンクからアクセスします。詳細については、『*Cisco Unified Reporting アドミニストレーションガイド*』を参照してください。

リモート サービスアビリティ ツール

Cisco Unified Communications Manager システムの管理を補完するため、リモート サービスアビリティ ツールを使用できます。これらのツールを使用すると、診断の支援またはリモート トラブルシューティングのために、システム情報およびデバッグ情報を収集できます。これらのツールは、一連のローカルまたはリモートの Cisco Unified Communications Manager 構成情報を処理し、レポートを作成できます。テクニカル サポート エンジニアは、顧客の同意を得て Cisco Unified Communications Manager ノードにログインし、ローカル ログイン セッションから実行可能な機能すべての実行を許可するデスクトップまたはシェルを入手します。

Cisco Unified Communications Manager は、次のリモート サービスアビリティ機能をサポートしています。

- Simple Network Management Protocol (SNMP; 簡易ネットワーク管理プロトコル) : Cisco Unified Communications Manager などの管理対象デバイスをリモート管理できるようにします。
- show コマンドライン インターフェイス : Cisco Unified Communications Manager システムのデータを表示します。
- CiscoWorks2000 : Cisco Unified Communications Manager とは別途販売されているもので、Cisco のネットワークおよびデバイスの保守をサポートします。次の機能は、CiscoWorks2000 を使用して Cisco Unified Communications Manager の操作を管理する方法を示しています（これらは単なる例です）。

Path Analysis は、Cisco Unified Communications Manager システムのパスをマップ、トレース ログ、または検出テーブルの形式で定義します。Path Analysis はネットワーク内の指定した 2 つのポイント間の接続をトレースします。Cisco Unified Communications Manager の管理ページで CDR ロギングを有効にする必要があります。

Syslog Analysis ツールは、Cisco Unified Communications Manager の各ノード上、およびサイトにある他の Cisco デバイス上のイベントとエラー メッセージを幅広い範囲で同時にモニタし、管理します。

Cisco Discovery Protocol (CDP) を使用すると、Cisco Unified Communications Manager サーバを検出し、検出したサーバを CiscoWorks2000 で管理できます。隣接デバイスの CDP キャッシュ MIB を使用して Cisco Unified Communications Manager を検出した後、CiscoWorks2000 を使用して、Cisco Unified Communications Manager をサポートしている他の MIB にクエリーを実行し、トポロジ サービス、ユーザの追跡、パス解析、およびその他のネットワーク管理サービスに関するプロビジョニングまたは統計情報を得ることができます。CiscoWorks2000 を使用する際は、Cisco Unified Communications Manager を検出するために CDP ドライバを常に有効にしておく必要があります。

ブラウザのサポート

シスコは、Cisco Unified Serviceability で次のブラウザをサポートしています。

- Internet Explorer 6.0 および 7.0
- Netscape 7.1

Cisco Unified Serviceability にアクセスするには、サポートされているブラウザが動作しているマシンからアプリケーションを起動する必要があります。



(注)

Cisco Unified Communications Manager CDR Analysis and Reporting (CAR) は、同じブラウザをサポートします。

Cisco Unified Serviceability は、HTTPS を使用して安全な接続を確立します。



ヒント

Cisco Unified Serviceability は、ブラウザ内のボタンをサポートしていません。設定タスクを実行するときは、[戻る] ボタンなど、ブラウザのボタンを使用しないでください。

参考情報

その他のシスコのマニュアル

- *Cisco Unified Communications Manager CDR Analysis and Reporting* アドミニストレーションガイド
- *Cisco Unified Communications Manager Dialed Number Analyzer* ガイド
- CiscoWorks2000 ユーザ マニュアル
- *Cisco Unified Communications Manager Real-Time Monitoring Tool* アドミニストレーションガイド
- *Cisco Unified Reporting* アドミニストレーションガイド

